

## プロカルシトニン (PCT)測定において非特異反応による偽高値を認めた一症例

◎久納 淨<sup>1)</sup>医療法人社団 健育会 西伊豆健育会病院<sup>1)</sup>

【はじめに】プロカルシトニン（以下 PCT）敗血症の診断に有用なマーカーである。PCT 定量検査を汎用の生化学自動分析装置で測定可能なラテックス凝集比濁法を用いた試薬（KAINOS 社 LATECLE PCT 試薬）により通常の生化学検査と併せて測定可能になったため院内検査として導入した。今回、非特異的反応による偽高値と考えられる症例を経験したので報告する。

【症例】80 代男性。微熱があり肺炎疑いで生化学検査及び血算が提出された。PCT 以外では CRP2.25mg/dL とやや高値であったがその他項目は基準値内であり重篤な症状を疑う結果では無かった。ところが PCT のみ突出して 93.7ng/mL と異常高値を呈したため 2 倍希釈を行い再検査すると 4.24ng/mL(実測値)と初検値と合致しない結果となり、何らかの異常反応を引き起こす物質の存在が疑われた。これより希釈直線性の検証を行った。他のラテックス凝集比濁法の項目においても異常反応を引き起こすか確認した。

【方法】測定機器は Accute RX（キャノンメディカル）患者検体を 2, 4, 8, 16, 32 倍に希釈、測定した。ラテッ

クス凝集比濁法を原理としているフェリチン、CRP、CK-MB について希釈なしと 2 倍希釈で差異の有無を検討した。検体希釈の正確性を確認するためクレアチニンを同時に測定した。

【結果】PCT は（実測値×希釈倍数）希釈なし 93.7ng/ml 2 倍 8.48ng/mL 4 倍 2.67ng/mL 8 倍 0.16ng/mL 16 倍 0.16ng/mL 32 倍 0.00ng/mL と希釈直線性が認められなかった。CRP、フェリチンでは希釈測定値に差異は認められなかった。CK-MB については希釈検体が高値を示した。クレアチニンの希釈直線性に問題はなかった。

【考察】8 倍希釈程度で異常反応は見られなくなったが希釈倍率が高くなると検出限界以下になるためルーチン検査では 10 倍希釈程度での再検が必要と思われる。原因は異好体等の影響が考えられるがこのような要因を除外できる試薬の改良が望まれる。

西伊豆健育会病院 検査科 kensa@nishiizu.gr.jp